



# 永平寺町の魅力 AtoZ ととのうまち永平寺町 vol.03 ができるまで

1



実は定員オーバーだったほど人気の永平寺町学。じゃんけんを勝ち抜いたメンバーで初めての授業は自己紹介から。

2



カードゲームを通してまちづくりの計画を立てることの難しさを学ぶ。その分、やりがいと楽しさも！

3



永平寺町役場の方から永平寺町の概要を説明していただいた。永平寺町の魅力を再発見する機会になった。

4



ライターの石原藍さんに来ていただいて、リサーチのやり方を学んだ。取材に向けてやらなければならないことが明確になった。

5



県外から永平寺町に移住されてきた地域おこし協力隊のお二人に永平寺町の魅力についてお聞きした。新たな視点から永平寺町の魅力に気づくことができた。

6



それぞれの場所取材。たくさんの方にご協力いただき、有意義な時間を過ごした。

7



冊子づくりも後半に。打ち解けてきたみんなと記念写真。

8



一度作った記事の推敲作業をした。みんなで話し合いながらより良い文章を考えた。

9



たくさんの方々に協力いただき、永平寺町の魅力いっぱいの一冊が完成。ぜひ読んでみてください！

【コンテンツ作成】福井県立大学 1年生 15名  
今泉 昂久, 入江 彩貴, 北井 沙知, 北川 駿, 桑江 祐世  
近藤 祐加, 佐々木 帆乃華, 佐々木 愛七, 志村 颯音, 高崎 仁美  
津戸 陽向, 南部 良輔, 藤田 睦樹, 安野 純矢, 山田 彩楓

【企画監修】福井県立大学 地域経済研究所 准教授 高野 翔  
【協力】永平寺町 総合政策課  
【編集】vue 石原 藍  
【デザイン】保育とデザイン ホリイ シンタロウ

# TOTONOU

# MACHI

# EIHEIJI

# VISION

# GUIDE

# BOOK

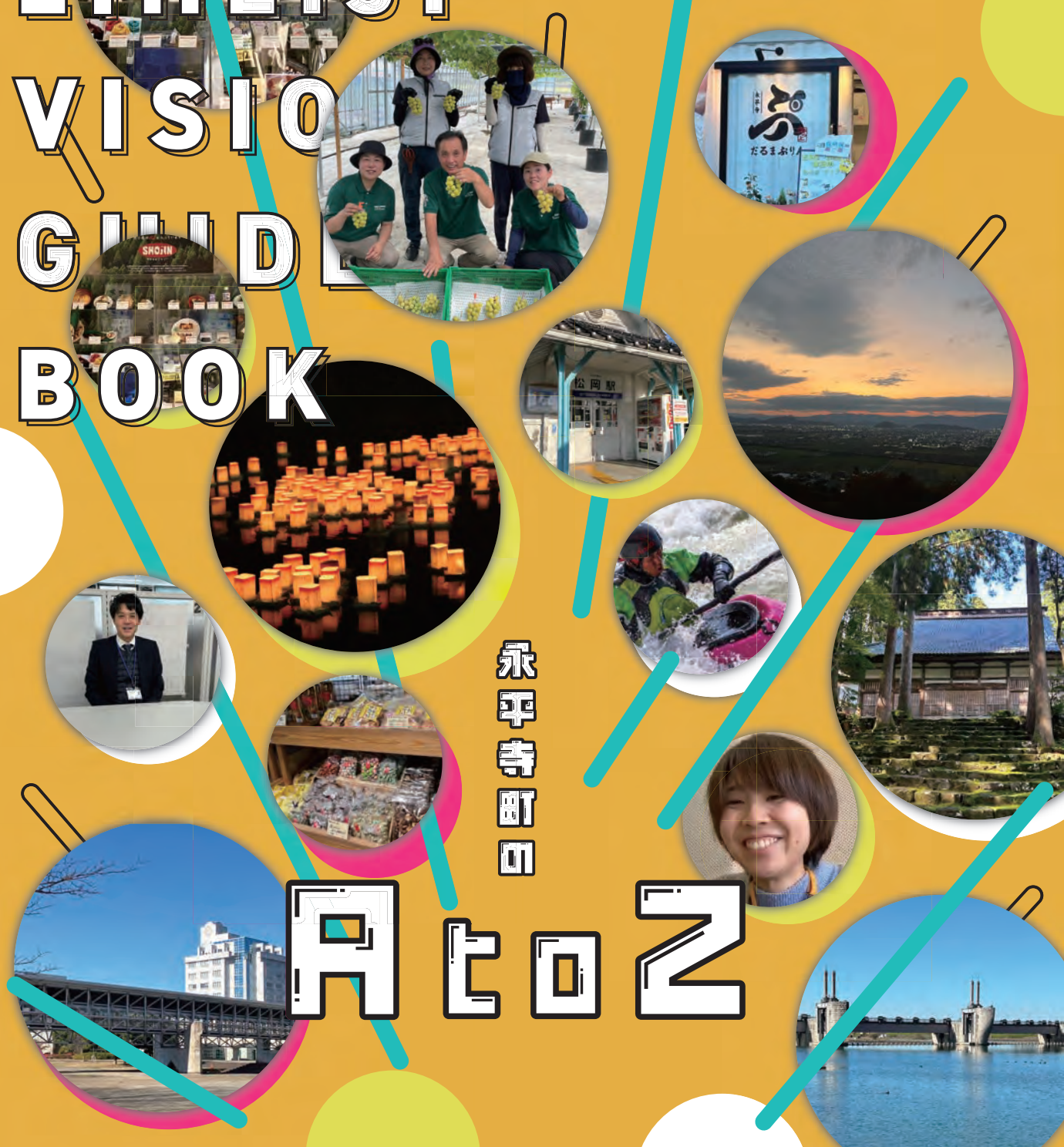
永平寺町ビジョンガイドブック

# ととのうまち永平寺町

Eiheiji-Town Vision Guide Book

03

福井県立大学 × 永平寺町  
永平寺町学



永平寺町

# AtoZ



# 永平寺町ビジョンガイドブック

福井県立大学と永平寺町が連携し開講する「永平寺町学」

15名の福井県立大学1年生が、計15回の授業を通じ、地域づくりの魅力を学び、永平寺町の魅力を発見するために、地域に飛び込みました。

学びあいを通してできあがってくれたのが「ととのうまち永平寺町」という、永平寺町の新しくて懐かしいビジョンを引き出し紹介するこのガイドブック。人と地域から学び、若き学生視点から、永平寺町にある暮らしの魅力を発信に挑戦しました。

## contents

- 04-05 永平寺町の魅力 A to Z
- 06-14 A から Z までの魅力の紹介
- 15 編集後記
- 16 ビジョンガイドブックができるまで



## はじめに

永平寺町の魅力ってなんだろう。

これまでに福井県立大学と永平寺町が連携し取り組んできた「永平寺町学」では、「ととのう」という、なんだか懐かしくて、けれども未来的な、そんな暮らしの魅力があるまちであると注目してきた。

自分と自分との関係性、自分と他者との関係性、自分と自然との関係性。

この3つの関係性を、調和をもって整えながら、生活できる豊かさがある。そんな「ととのうまち永平寺町」という地域ビジョンを放つまちであると。

永平寺町ビジョンガイドブックの第三弾となる今回は、この魅力をもっと具体的に見える化してみたいという動機からはじまった。

そこで、まちの魅力の見える化のために「A to Z」と呼ばれる古典的編集手法を用いることにした。塩見直紀さんの著書『塩見直紀の京都発コンセプト88』（京都新聞出版センター、2023）のアイデアを活用してもらい、AからZまでの頭文字を有するまちの魅力に関する26個のキーワードを列挙し（A：まちの新たな魅力、B：まちの舞台、C：まちがチャレンジしていること、D：まちの伝統や伝説、など）、その一つ一つを地域の現場に見つけていくことにした。

学生たちは、まちの魅力に関するAからZまでの各キーワードに関して、リサーチを通じ対象を定め、現地視察や取材、ライティングに臨み、キーワードを通じたまちの魅力の見える化を試みた。

まちの魅力というものは星の数ほどあるが、学生たちが今回光を当ててくれた26個の魅力を通じて、永平寺町の魅力の一端でもお届けすることができたら嬉しい。



# A to Z

## A 新たな魅力

ナミノバ

## B やりたいことができる舞台・場所

永平寺町（永平寺町チャレンジ企業支援事業）

## C まちがチャレンジしていること

近助タクシー

## D 伝統・伝説

永平寺中学校

## E 縁を感じることに

大燈籠流し

## F ソウルフード

永平寺だるまぶりん

## G 魅力的な学校・学び舎

大本山永平寺 / 福井県立大学

## H 歴史的な建物

吉峰寺

## I 言い伝え / インスパイアしてくれること

竹原弁財天

## J 自慢できること

永平寺町ブランド「SHOJIN」

## K 気持ちのいい場所 / いい風が吹くところ

松岡公園

## L 魅力的なライフスタイル

暮らしの中の自然

## M マニアックなものを3つあげるなら

けんけら、胡麻豆腐、にんきーせんべい

## N 眺めのいいところ

永平寺町を山から見た風景

## O おもしろいこと / おもしろくできそうなこと

えい坊館

## P フォトジェニックなこと

松岡駅

## Q まちが大事にしている問い

永平寺町の笑顔

## R リスペクトすること

九頭竜川

## S 紹介したい素敵なお店

芭里音

## T ほっとできるサードプレイス・居場所

COZY COFFEE

## U ユニークなこと

THUNDERS DINER

## V まちのビジョン

永く暮らせる町

## W 魅力的な仕事・働き方

地域おこし協力隊

## X 出会いがクロスするところ / まちの謎

晴れのち、もっと晴れ

## Y 一度寄ってみたい場所

禅の里

## Z ずっと続いていてほしいこと

福井県立大学で知り合った人との繋がり



# A

## 新たな魅力



アクロバティックなフリースタイルカヤックの様子

## 世界のフリースタイルカヤックを 永平寺町で。

フリースタイルカヤックとは、川の激流の淵でアクロバティックな技を展開する競技である。その競技場所として、安定した波がある九頭竜川が非常に適していることから、「ナミノバ」というフリースタイルカヤックコースが誕生した。ナミノバではフリースタイルカヤックの国際大会の開催を目指している。同時に永平寺の「禅の心」を混じえ、スポーツ道を学んでいる部分も海外から来た人々に関心を持ってもらいたいそうだ。「ナミノバ」では音楽が流れていたり、技の解説がされていたりなど、一般の方が観戦してもとても楽しめそうだ。

取材対象：ナミノバ  
文：入江彩貴

# D

## 伝統・伝説

## 礼の心、永平寺中学校。

永平寺中学校は30年以上前から永平寺に由来する礼の心を元に無言清掃、黙想に取り組んでいる。校内で生徒たちがにぎわう中、清掃準備の音楽が流れた瞬間、生徒たちは黙って清掃準備をし、黙想で心を落ち着かせてから清掃に取り組む。静と動の切り替えは人格が変わったかのよう。膝を着いて丁寧に床を水拭きし、一人一人しっかり掃除に取り掛かる姿は印象的で圧巻だった。それぞれの掃除場所では学年を問わず一緒に清掃する。先生からの指導はなく、新入生は上級生の姿を習って取り組んでいるそうだ。



清掃前に黙想に取り組む生徒たち

取材対象：永平寺中学校  
文：入江彩貴

# E

## 縁を感じること

## 大切な思いよ、届け

永平寺で行われる大燈籠流しは、毎年8月に行われる「盂蘭盆会（うらぼんえ）」の一環として知られています。この行事は、「お盆」とも呼ばれ、故人の供養や冥福を祈るために行われます。大燈籠流しでは、参拝者が提供した大きな燈籠に故人の名前やメッセージが書かれており、夜になると、これらの燈籠が一斉に灯され、寺院の境内や周辺の川に流れていき、美しい灯りが水面に浮かぶ様子は幻想的で心に深い感動を与えます。自分の大切な人に込めた思いをあなたも届けてみませんか？



大燈籠流しの様子

取材対象：大燈籠流し  
文：南部良輔

# B

## やりたいことができる舞台・場所



永平寺町チャレンジ企業支援事業担当の吉田朱里さん

## そのアイデア、 永平寺で実現できるかも？

「アイデアを諦めて欲しくないんです」  
チャレンジ企業支援事業を担当する吉田さんはそう語った。新たな事業に取り組む人を支援するこの制度は、永平寺町で暮らす人々が挑戦する機会を生み出している。だるまぶりを始め、様々な事業の実現を手助けしてきた実績を誇り、地域産業の活性化にも大きく貢献。審査員との意見交換や最大百万円の補助、アイデアのブラッシュアップなどサポート体制も整っている。町内に拠点を置く読者の方にもチャレンジしたいアイデアがあれば、ぜひ永平寺町で実現への一歩を踏み出してほしい。

取材対象：永平寺町（永平寺町チャレンジ企業支援事業）  
文：高崎仁美

# F

## ソウルフード

## 永平寺らしさを伝えたい

# C

## まちがチャレンジしていること



近助タクシーの利用の様子

## 地域主体でつながっていく 近助タクシー

「近助タクシー」とはドアツードアの新しい公共交通で、利用者もドライバーも、同じ地域の住民であることが特徴である。この新しい公共交通は、利用者の自宅まで送迎し、町内の細かい道まで走ることが出来る。近助タクシーの魅力は、「地域主体」が実現された取り組みであることだ。地域の人々が他の人を誘い、近助タクシーを使った交流を深めたり、小学生の下校時に利用されたりと積極的に需要を広げている。ドライバーの山口さんは、「地域の人々の足になり、地区の高齢者らが近助タクシーで外に出ることで元気になるのがやがいがい」と話していた。

取材対象：近助タクシー  
文：近藤祐加



お店の様子

永平寺参道のふもとにあるプリン専門店、「永平寺だるまぶりん」。禅と関わりの深いだるまをイメージしたプリンである。コンテナのお店はスタイリッシュな見た目がアピールポイント！さまざまな種類のぶりんが並ぶがオーナーの井上さんの一番のオススメはお米ぶりん。福井の給食によく出る「お米のムース」からヒントを得て、福井らしさを紹介したいとお米ぶりんができたそうだ。永平寺の魅力が詰まっただるまぶりんぜひ食べに来てほしい！

取材対象：永平寺だるまぶりん  
文：北川駿



# G

## 魅力的な学校・学び舎



左：大本山永平寺 通用門 右：福井県立大学

永平寺町では2種類の学び舎がある。「禅を重んじた古くからの学び」と、「これから生きていくための新たな学び」である。大本山永平寺では今もなお、曹洞宗の考えを基に、僧侶の育成が行われている。永平寺町では「禅」という考えが大切にされている。「禅」における古くから受け継がれた学びがここにはあるのだ。また、永平寺町には福井県立大学がある。ここには、経済、農業、生物資源、看護福祉等様々な分野の学びがあり、地域に根付いた、未来へつなげる新たな学びを創造している。「新旧の学び」を得られる魅力的な学び舎がそろっているのだ。

取材対象：大本山永平寺 / 福井県立大学

文：藤田睦樹

# H

## 歴史的な建物



正面から見た吉峰寺

吉峰寺は道元禅師が越前国に入って最初に修行を行った曹洞宗の道場。境内には道元禅師像や“道元筆”と伝わる守札、座禅の際に坐したと伝わる「座禅石」などがあり、白山水が残る重要祖跡ということから、境内全体が永平寺町指定文化財に指定されている。吉峰寺は山の中にあり自然に囲まれ、静かな雰囲気。山の麓から吉峰寺まで歩いて登るコースがあり、少し険しいコースとなっているが、登り切った時の爽快感は計り知れない。ぜひこのコースを登って吉峰寺を訪れてほしい。

取材対象：吉峰寺

文：北川駿

# I

## 言い伝え インスパイアしてくれること



竹原弁財天の鳥居

山のふもとに位置する竹原弁財天は、通称「弁財天白竜王大権現」といい、福井県有数のパワースポットのひとつである。この場所は、小さな神社ではあるが、商売繁盛にご利益がある白蛇の神様がいて、境内の大岩にその白蛇様がすみついているといわれる。運が良ければその姿を拝見することができ、ご利益がもらえるかもしれない。訪れてみると、空気が澄んでいて、神社特有の神聖さを感じた。入口の鳥居も大きく立派で、本尊までにある橋も風情があり、とても落ち着く場所となっている。

取材対象：竹原弁財天

文：今泉昂久

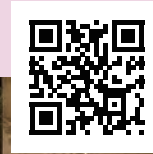
## 新旧の学び

# J

## 自慢できること

### シンプルだけど美しい。

「SHOJIN」は、地域資源を生かした「禅のまち」永平寺町の地域特産品ブランドだ。認定された品目は53種類。永平寺町の事業者みんなで協力して販売していこうというきっかけでブランドが立ち上げられた。永平寺町の豊かな自然を活かし心を込めて作られた商品は、ここでしか味わえない。味もパッケージも最高で、食べてみればきっと永平寺町を訪れてみたくなるはず。北陸新幹線開業に向けて、勢いにのる「SHOJIN」をぜひお手に取ってほしい。HPもこだわって作られており、とても魅力的なので、ぜひQRコードから見にいってみてほしい。



認定されている商品のオブジェクト

取材対象：永平寺町ブランド「SHOJIN」

文：佐々木愛七

# K

## 気持ちのいい場所 いい風が吹くところ

### 山奥の展望台

松岡公園は福井県立大学から車を10分ほど走らせた場所にある。公園までは険しい坂を登る必要がある。それを越え綺麗な景色が広がって見える。いまの時期は山の木々が紅葉し、色とりどりの景色が広がる。私が訪れたときはお昼すぎぐらいであったが、夕方くらいに行ってみると綺麗な夕日が見えるそう。また、夜に行くと街に明かりが灯った永平寺町が一望できるとのこと。さらに、春になると「桜の名所」としてもにぎわう。そうやって松岡公園は、長い間町民に親しまれてきた場所である。文章と写真だけではとても松岡公園の魅力が伝えきれないので、実際に自分の目で体感してほしい。



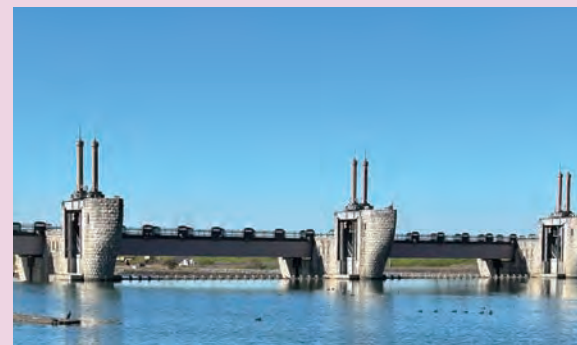
永平寺町を一望できる松岡公園

取材対象：松岡公園

文：南部良輔

# L

## 魅力的なライフスタイル



九頭竜川と永平寺町をつなぐ鳴鹿大堰

永平寺町の探索をする中で、永平寺町には緑を楽しむ場所、自然を学ぶ場所があり、日々の忙しさを忘れられる空間があると感じた。訪れた九頭竜川資料館では、鳴鹿大堰の歴史と九頭竜川の生態系について学んだ。資料館の職員は、「ここから見える九頭竜川の景色は本当に素敵で、良い所だねって言われるんです」と教えてくれた。また、近くで散歩をしていた地元の方は、「小さい頃から九頭竜川が遊び場で、今でもこの場所に来てしまおう」と話していた。永平寺町で自然と共に過ごす暮らしは、その人の思い出となる生活を与えてくれる。

取材対象：暮らしの中の自然

文：近藤祐加



# M

マニアックなものを3つあげるなら

## 密かに愛される者たち



密かに愛されるにんにく

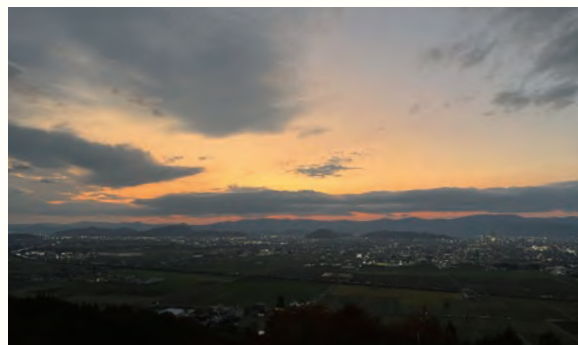
永平寺町にはあまり認知はされていないがとても価値のある者たちがある。それは「けんけら」、「ニンキーせんべい」、「胡麻豆腐」の3つである。「けんけら」は曹洞宗の僧である健徑羅（けんけいら）が師のために作ったとされる。大豆、ゴマ、水あめ、という素材の味を生かした伝統駄菓子。「胡麻豆腐」は精進料理の代表格。味噌だれにつけるなどの食べ方もある。「ニンキーせんべい」は永平寺の上志比ニンニクを使った揚げせんべい。いづれも手が止まらなくなり食べ過ぎに注意が必要だ。

取材対象：けんけら、胡麻豆腐、にんきーせんべい  
文：津戸陽向

# N

眺めのいいところ

## 人と街が寄り添う



永平寺町の街並みを上から見た写真

永平寺町の魅力の一つといえば、永平寺、吉峰寺、食。みんなどれも魅力だと思うが、私はぜひ風景も永平寺の魅力の一つに取り入れてほしいと思う。昼は日が街を照らす。夜は街自身が光を発して街を照らす。その間の日が沈む瞬間。私が好きな瞬間だ。人は街を創る。街は人を創る。永平寺町には街と人との互助がある。例えば私が大学終わりに大学近くのラーメン屋によく行く。ラーメンを食べることでその日の疲れを癒せれることに街に寄り添われていると感じた。人が街に寄り添える魅力がここにある。この日も夕日が人々を照らしていた。

取材対象：永平寺町を山から見た風景  
文：安野純矢

# P

フォトジェニックなこと

## 地元の愛される駅

えちぜん鉄道の取材として、松岡駅を訪れた。ドラクエ風の案内板があったり、レールとして使われていたものを柱として使ったり、昔ながらの踏切が残っていたりとフォトジェニックでレトロな雰囲気がある。また、街中を走っているため電車からも大きな田園風景や桜と雪景色の山々など福井特有の自然との距離が近い景色が広がり、ゆったりとした雰囲気を楽しめる。松岡駅にいる職員さんに話を聞いたところ、「この場所は地域の人と密接に関わられたり、他県や違う市町村から来る人も多いため、色んな人と交流ができるのが魅力」と話していた。



レトロな駅

取材対象：松岡駅  
文：今泉昂久

# Q

まちが大事にしている問い

## 「笑顔」への思い

永平寺町の政策では、「笑顔」という言葉がよく使われている。永平寺や鮎街道など、他のまちではあまり見慣れないものが多く、隠れた魅力がある永平寺町が、なぜ「笑顔」という言葉をよく使うのだろうか。永平寺町総合政策課の反保（たんぼ）さんは「永平寺から“笑顔”という言葉は連想されにくいことから、町民全員に笑顔になってほしいという思いが出たのではないのでしょうか。」と教えてくれた。永平寺町では、学校給食などの無償化や地域別での体育祭、文化祭の開催といった政策を通して、町民全員が笑顔になるような取り組みに挑戦している。大本山永平寺や鮎街道など、隠れた魅力のあるこのまちでは、いろんな笑顔に出会えそうだ。



永平寺町のイメージキャラクター えい坊くん

取材対象：永平寺町の笑顔  
文：志村颯音

# O

おもしろいこと  
おもしろくできそうなこと

## 魅力発信と憩いの場



憩いの場「えい坊館」

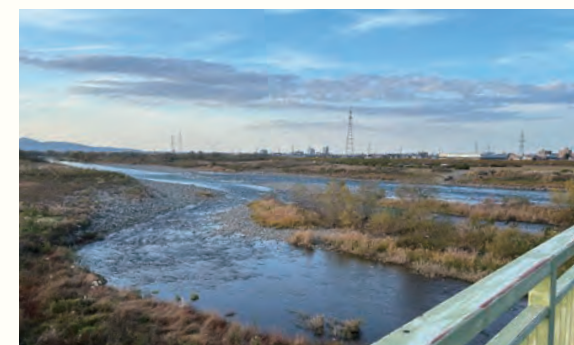
「禅と食と酒の魅力味わい。」これは、えい坊館のコンセプトだ。えい坊館は、チームラボと禅がコラボした空間があったり、月に一回ランチ会があったり、町内にある三つの酒造の日本酒が買えたりするなど、地域の魅力を発信している施設だ。それと同時に憩いの場としても利用されている。一階の食コーナーには机と椅子があり、お年寄りが雑談にきたり、小学生が宿題をしに来たりするそうだ。これから、中高生の層が利用してくれるようになると、もっと面白くなりそうだと、えい坊館スタッフの谷口さんは語った。

取材対象：えい坊館  
文：山田彩楓

# R

リスペクトすること

## 九頭竜川が永平寺町へみせる姿



五松橋から見た九頭竜川

延長 116km、流域面積 2,930km と県内最大の河川である九頭竜川は、永平寺町にとってどんな存在なのか。「九頭竜川は永平寺町のシンボルです」永平寺町総合政策課の反保（たんぼ）さんはそう答えた。今年の夏、永平寺町では九頭竜川を舞台としたイベントが多く開催され、親子や女性を対象とした釣り教室や地元のお酒や食を味わうイベントは多くの人でにぎわった。それらの中には、数年前から始まったばかりのものもあり、これからは新しいイベントが開催されていく可能性があるという。今後の九頭竜川の姿にも期待していきたい。

取材対象：九頭竜川  
文：志村颯音



# S

紹介したい素敵なお店

## ゆとりを感じられる場所



店内の様子

住宅街の中にひっそりと建っている重厚な門構えの蔵。ここは元々蔵だったものを改装した、蔵カフェ芭里音（バリノン）。オーナーの松井さんは、「芭里音で音楽を聴きながらゆったりとした時間を過ごして欲しい」という想いから、このカフェを開いた。毎週土曜日にはピアノの演奏が行われており、叔母から受け継いだカレーを元に作られる芭里音カレーを味わうことができる。現代の喧噪から離れ自然を感じながらゆとりを感じられる時間が、芭里音では流れているように感じた。

取材対象：芭里音  
文：佐々木帆乃華

# T

ほっとできるサードプレイス・居場所

## 自然をコーヒーとともに



春に撮られた COZY COFFEE の風景

「景色を見てマインドセットしてもらい、自分を取り戻す。そういう場所でありたい」COZY COFFEE オーナーの林浩治さんはそう語った。COZY COFFEE ではコーヒーを楽しめるとともに、豊かな自然を感じることができる。春には桜が見え、夏にはアユ釣りの様子が、秋には紅葉を楽しめ、冬には奥越特有の雪の風景を味わえる。これほど良い場所があるだろうか？自然を気の向くままに感じられる場所こそがほっとできるサードプレイスだと私は思う。だからこそ雑念はいらぬ。コーヒーだけを片手に気を落ち着かせることも、人生のひと時には必要なのではないか。

取材対象：COZY COFFEE  
文：藤田睦樹

# U

ユニークなこと

## みんなの憩いの場



店内の様子

沖縄にあるアメリカンなハンバーガー屋がコンセプトの「THUNDERS DINER」。偶然の巡り合わせでこの永平寺町に二店舗目としてお店がオープンした。「この店舗を誰でも気軽に入れるような店にし、色んな人に食べに来てもらいたい。この場所は、大学や専門学校が近くにあるので、特に学生にハンバーガーやお酒を楽しんでもらい、憩いの場として使ってもらえたら嬉しい」と経営している加藤さんはおっしゃっていた。メニューは加藤さん考案のもので、ハンバーガーだけでも様々な種類がある。具材を変えると色々な味が楽しめるので、食べ比べてみてほしいとのこと。他にもメニューが豊富である。大学の近くではあまり見かけないおしゃれなお店なので、ぜひ足を運んでほしい。

取材対象：THUNDERS DINER  
文：桑江祐世

# V

まちのビジョン

## 遠い未来を見据えて

「歳を重ねてもずっと暮らしてほしい」永平寺町永住支援課の伊藤修平さんは語った。新しい風と昔からの伝統が交わり、暖かい雰囲気の中で安心安全に暮らせる町永平寺町。北陸新幹線の福井開業が迫る中、観光やビジネスで訪れた人々に住みたいと思ってもらえるよう町づくりを進めている。そうすれば更なる循環が生まれ更なる発展が見込める。そのために、現在進行形で進化していかなければならない。目先のために行動することはもちろん、遠い未来でも住んでいる住民の方のために行動し永住できる町を目指していきたい。



永平寺町永住支援課の伊藤修平さん

取材対象：永く暮らせる町  
文：津戸陽向

# W

魅力的な仕事・働き方

## わたしたちはここで、笑顔になる。

「自分の好きなことが、誰かのためになったらいいな」町内で地域おこし協力隊として活動する中野さんは、生き物の調和やバランスを感じられる農業に昔から関心を寄せていた。自然が好きで自分の興味のあることを追い求めてきた中野さんにとって、永平寺町が誇る美しい風景は移住をするきっかけになるほど魅力的に映った。そんな永平寺町の地域おこし協力隊で農業に触れることは自分にぴったりのライフスタイルになっている。自分の好きなことをやっていく中で、農作物を通じて地域の人を笑顔にしたい。中野さんの行動の源はそこにある。



新たな観光資源であるマスカットを育てる地域おこし協力隊

取材対象：地域おこし協力隊 中野沙織さん  
文：高崎仁美

# X

出会いがクロスするところ／まちの謎

## 人 × 人だけが出会いじゃない



暮らしとつながる「晴れのち、もっと晴れ」

出会いがクロスするところ。そう聞くと、私たちは人 × 人の出合いを想像しがちだ。実際、私も取材前はそう考えていた。しかし、「晴れのち、もっと晴れ」でクロスするのは、人だけではない。自然 × 人、伝統 × 人、先祖が守ってきたもの × 人など、そこではいろいろなものと出会うことができる。「晴れのち、もっと晴れ」は、古民家を改装した民宿で、五衛門風呂や鶏小屋などが特徴的だ。これらの体験を通じて、昔の循環した素敵な「暮らし」と人がクロスし、来た人が「暮らし」について考え、行動する原動力になればいいと、代表の芳沢郁哉さんは語ってくれた。

取材対象：晴れのち、もっと晴れ  
文：山田彩楓



# Y 一度寄ってみたい場所



店内のお土産たち

道の駅「禅の里」には、地元特産品を使用したこだわりの食品が沢山並び、福井のお土産・野菜なども販売している。特に目を惹かれたのは永平寺認定ブランド「SHOJIN」とピクニックコーン大福ソフトクリームである。「SHOJIN」は作り手の愛情がこもった永平寺町ならではの商品で、上志比にんにくやお酒などがある。目に入る商品全てに魅力を感じ、どれを買うべきか迷う。ピクニックコーン大福は極甘のピクニックコーンを使用した大福。インパクトのある名前だが、大人気のスイーツである。ぜひ禅の里にしかない絶品グルメを食べてほしい。また、ゆっくりお話しできる休憩スペースや展望室があり、みんなの憩い・癒しの場になっている。みなさんも一度訪れてみてはいかが？

取材対象：禅の里  
文：北井沙知

# Z ずっと続いてほしいこと



福井県立大学の永平寺キャンパス

まだ、福井県立大学にきて7ヶ月ほどしかたっていないが、この先ずっと繋がりを持っていたいと感じる友人がたくさん出会えた。高校までとは違い、各地から沢山の人が集まり、学部、年齢の垣根を越えて関わるチャンスが多い。そのため今まで関わったことのないようなタイプの人と関われる。その度に新たな知見が発見でき、刺激と成長の機会が得られる。これからまだまだ、そういう友人に出会えるんだろう。授業、部活、友人の紹介など、福井県立大学にはそこらじゅうに人と関わるチャンスが転がっている。

取材対象：福井県立大学で知り合った人との繋がり  
文：桑江祐世

## 永平寺町の

# A to Z

## 永平寺町の魅力たっぷり！禅の里

# 編集後記



永平寺町の沢山の魅力を知り、永平寺町がもっと好きになりました。このゼミでの出会いや気づきに感謝の気持ちでいっぱいです。

佐々木 愛七 経済学部経済学科 1年



今回の永平寺町の取材を通して、永平寺町の新たな魅力を発見したり、更に永平寺町について学び、よりこの町を好きになれたと思います。

今泉 昂久 経済学部経営学科 1年



永平寺町については普段の授業でも学んでいましたが、まちづくりに携わる人の想いや町民がリスペクトするものを取材を通して実感することができました。

志村 颯音 海洋生物資源学部海洋生物資源学科 1年



自分の力ですべて取り組んだため本当にやりがいがありました。同時に永平寺町の人の温かさを感じいい経験になりました！

入江 彩貴 経済学部経済学科 1年



福井には地元愛にあふれた人たちがたくさんいることを実感しました。私もシビックプライドをはぐくむ活動を行ってみたいです。

高崎 仁美 生物資源学部生物資源学科 1年



この学習を通して、今まで知らなかった永平寺の魅力を感じることができました。冊子づくりは初めてだったけど、たくさんの人の支えで、良い経験になりました。

北井 沙知 経済学部経営学科 1年



私はインタビューが1番印象に残っています。このような機会がなければ出会わなかったであろう人にインタビューに行っただけで自分の中で新たな視点が生まれたことがとても魅力的でした。

津戸 陽向 経済学部経済学科 1年



今回の永平寺町学を通して、現地に訪れて、実際に見たり聞いたりすることの楽しさや面白さを知ることができました。

北川 駿 経済学部経営学科 1年



実際に永平寺町を自分の足で回ることによって永平寺町の新たな魅力に気づくことができました。完成した冊子を多くの人に見てもらえると嬉しいです。

南部 良輔 経済学部経営学科 1年



自分で取材をして記事を書いて、ひとつの冊子が出来上がる。この活動を通して私は大きな達成感を得られた。私はそれを一番強く感じた。

桑江 祐世 経済学部経済学科 1年



「自分たちがライターとなり一つの冊子を作り上げる」今回の取材や冊子製作を通してその面白さに気付けたと思います。

藤田 睦樹 経済学部経営学科 1年



実際の現地調査を通して、永平寺町のたくさんの魅力と人の温かさに気づかされました。今では永平寺町のファンです！

近藤 祐加 経済学部経済学科 1年



グループでなにかを作り上げることは社会人になってからも続くことです。学生のうちに経験できたことは大きな財産になることを確信しています。

安野 純矢 経済学部経済学科 1年



取材をしてみて、永平寺町の良さを体感することができた。この冊子を通して、永平寺町のことをあまり知らない人にも、この町ならではの趣や人情を感じて欲しい。

佐々木 帆乃華 経済学部経営学科 1年



アポを取って取材に行ったり、表紙について話し合ったり、いろいろな経験をするのができて面白かったです。

山田 彩楓 経済学部経営学科 1年